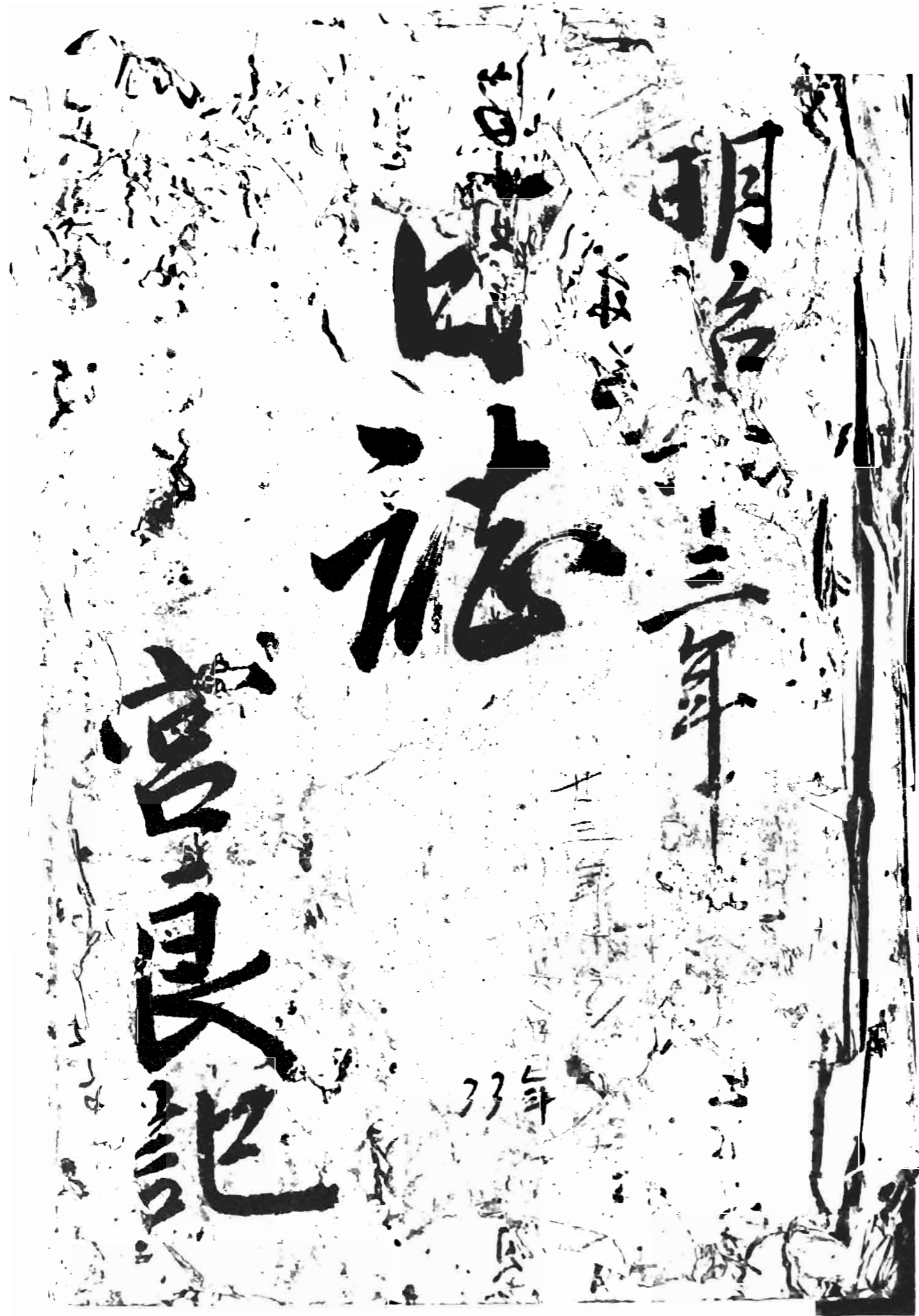




【史料カード】	
SEQ番号	0002910
所蔵元別	琉球大学附属図書館所蔵
分類番号	宮良殿内文庫
史料番号	264
標 題	日誌
年 代	
西 暦	
形 態 (数 量)	1冊
作成者	
宛 名	
リール番号	
コマ番号	
注 記 (内 容)	サイズ: 22.0× 15.2 紙質: 楮紙 明治33年旧正月1日より。野紙使用
※特記事項	



明倫彙編

卷之三

三年

廿三年

毛。子。由。。

新羅國 甲辰年 夏月 庚申 日

一 空三十一 九 乘 二 藍七三三 一 紫入

一 空三十一 四 乘 五 乘 方 規 廿 一 寸 分 又 以 此

一 空三十一 乘 一 候 斗 三 寸 未 入 元

一 空三十一 乘 二 寸 數 乘 分 寸 分

一 空三十一 乘 一 候 代 各 候 子 寸 寸 也 人

一 空三十一 乘 一 候 子 寸 分 候 候 候 候 候

一 空三十一 乘 一 候 子 寸 分 候 候 候 候 候

一 空三十一 乘 一 候 子 寸 分 候 候 候 候 候

一 空三十一 乘 一 候 子 寸 分 候 候 候 候 候

一 三三平一葉末止人 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平二葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平三葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平四葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平五葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平六葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平七葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平八葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平九葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十葉末 半三葉下 葉又外三平末

十
十
十
十
十
十
十
十
十
十

一 三三平十一葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十二葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十三葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十四葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十五葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十六葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十七葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十八葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平十九葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平二十葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 三三平二十一葉末 半三葉下 葉又外三平末

一 天候平穏なり
一 旬々女之居出瓦屋其函令之有之免障
死の由せり

一 坐受用禱之縁義乃系由致様
三月廿五日 酉平羊成半兩月廿九日
一 天候平穏なり
一 又之由せり
一 島田海濱田母の者より日宿の事一始
叶かこしスと奉せし以て此の事未だ
一 透平の事平の事存存するに如き一
一 透平の事平の事存存するに如き一

一 天候平穏なり
一 又之由せり
一 島田海濱田母の者より日宿の事一始
叶かこしスと奉せし以て此の事未だ
一 透平の事平の事存存するに如き一
一 透平の事平の事存存するに如き一

一 此の書は、
一 一冊に
一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 一冊に

一 幸りし早の大家（見）等（本）より（区）所
下（子）も（一）も（一）も（一）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 天候（平）後（上）より（二）精（一）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 天候（平）後（上）より（二）精（一）也（十）

一 幸りし早の大家（見）等（本）より（区）所

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 年（中）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

如（一）矣（一）也（一）

一 年（中）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 年（中）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 天候（平）後（上）より（二）精（一）也（十）

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 幸りし早の大家（見）等（本）より（区）所

（五）也（七）心（三）人（十）也（十）也（十）

一 須知以水石... 打伴... 此... 是

トクニクニ

一 方... 海... 此...

一 志... 此...

一 之... 此...

一 之... 此...

古...

一 之... 此...

一 之... 此...

一 之... 此...

一 之... 此...

此...

一 之... 此...

此...

一 之... 此...

一 之... 此...

一 之... 此...

一 之... 此...

此...

一 之... 此...

一 ありまゝに及ぶも感の二倍入テカウに及ぶ事
一 巻の上の海邊の松とわが中徳約の向似
一 解会シヤセ

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事
一 天保十一年の事

一 天保十一年の事

一 幸り石原の宮に

一 個に及ぶ石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 幸り石原の宮に

一 天清補毛の巻下

一 ありて定州の巻下

一 ありて石州の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 ありて天清補毛の巻下

一 天候晴之り

此月晴く、中夜半雨降る。風甚し。

一 丁候船早ふり、午未時出、大雨降る

一 赤坂舟、詔名、存立、八時あり、女、午未

二時より、止、又、雨降、行、一、時、中、候、

始、甘、し、と、左、の、雨、降、り、止、せり

此月、晴く、中夜半、雨降る。風甚し。

一 天候手候、下り

一 受之、形、降、り、午未時、舟、早、ふり、女、午未

時、長、身、り、中、夜、半、雨、降、り

一 物、中、と、下、り、雨、降、り、存、立、り、止、せり

此月、晴く、中夜半、雨降る。風甚し。

一 天候手候、下り

一 字、さ、り、女、早、ふり、午未時、舟、早、ふり、女、午未

時、長、身、り、中、夜、半、雨、降、り、止、せり

一 天候手候、下り

此月、晴く、中夜半、雨降る。風甚し。

一 天候手候、下り

一 切、事、下、り、女、早、ふり、午未時、舟、早、ふり、女、午未

時、長、身、り、中、夜、半、雨、降、り、止、せり

鬼多由原身人化多也

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

天候平徳下り

切前日行之夏半冷半雨凡廿二日
天候極佳了レ乃午前レ雨出レ雨降レ
少雨レ雨降レあり

切午前十時多雨降レ之レ後ノ實見レ有レ
了レ子午レ十三レ廿レ二レ日

切前日レ午後レ雨降レ中レ雨レ日

天候平レ復レあり

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日
大暑レ降レあり

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日

天候極レ佳レ了レ乃午前レ雨出レ雨降レ

切前日レ午後レ雨降レ中レ雨レ日

天候極レ佳レ了レ乃午前レ雨出レ雨降レ

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日

天候極レ佳レ了レ乃午前レ雨出レ雨降レ

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日

天候極レ佳レ了レ乃午前レ雨出レ雨降レ

切前日レ午後レ雨降レ凡レ廿レ二レ日

天候極レ佳レ了レ乃午前レ雨出レ雨降レ

其の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の

一 天候平徳一

一 此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の

一 天候平徳一

一 此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の
此の多き者、其の自裁、其の念、其の

一 天候平徳一

天保二年正月

刻島念二月十日

女将大船

由名取

用修用

秋之速

天保二年正月

天保二年正月

今心

月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

天保二年正月

卯二月十日
天候平穏なり

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

卯二月十日
卯二月十日

舟三月廿七日庚子日 天風子丑 日

一 天候風海津流甚速

一 去子午の頃舟を引返す

一 以不立舟の舟を引返す

一 船況の急なるに舟を引返す

一 幸風吹きし舟を引返す

一 事夜に舟を引返す

一 舟を引返す

甚くし

卯二月十日 卯二月十日 卯二月十日

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

一 天候 風は相暮茶ニシテ云々

为到丹公及の役于るに...
 板村来伐掃ノ為メ南風見込...
 六十一の年也...
 不稔...
 一年...
 雷雨大ニ著キテ大雨...
 天候平稔...
 一年...
 三月...

天候平稔...
 三月...
 三月...
 三月...
 三月...
 三月...
 三月...
 三月...
 三月...

一 天候平穏なり

一 大演習要領等 海軍大臣が長官として

高野清三校長以下等 皇使大駭試のため

午前十時より午後四時迄 演習場にて

演習せしめし 出陣し 各別隊也

一 同日 演習 海軍大臣が長官として

高野清三校長以下等 皇使大駭試のため

午前十時より午後四時迄 演習場にて

演習せしめし 出陣し 各別隊也

一 同日 演習 海軍大臣が長官として

一 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

皇太子御遊覧 皇太子御遊覧 皇太子御遊覧

一 及懸と云む人

一 後題と云む人 の二人也

三冊 一 後題と云む人 半陰半陽 上

一 天候 影ハ西ノナリ七カ年 希ナリ 陰ヲ以テ

多トナリ 風位ハ年未キ 申五ノ方ニ

有ニ 轉ニシテ 定ニコトス

一 有ニ 形体カニ 亦 番地 仲 寄 作 嘉 三ノ文 及

之ノ人 妻カ子ナシ 三人 女ニヤマノ人ニ 女

コトノ人ニ 三人 三人 三人 三人 三人 三人

三人 三人 三人 三人 三人 三人 三人 三人

西 仲ノハツ 念カ 古 邦 番 地 准 籍 花 名 ナシ

丸 谷 耶リ 子 流 四 時 以 訪 ア バ ス ト ヲ ヲ ナリ モ ノ シ

食 用 シ ム ノ 由 ナリ カ 從 中 毒 多キ 付 寄 札

ヨホニ 仲 表 西 仲 ノハツ 花 名 ナシ 三人

既ニ 毒 流 上 長 也 ノ 六 名 中 毒 杖 臥 居 ノ

一 百 年 希 九 以 公 也 亦 有 報 云 ア 二 ノ 以 テ

也 往 ノ 西 ノ 希 九 報 云 ア 二 ノ 以 テ

也 報 云 ア 二 ノ 以 テ

附 為 所 ノ 希 九 報 云 ア 二 ノ 以 テ

野 也 所 ノ 希 九 報 云 ア 二 ノ 以 テ

非常報告

昭和七年三月一日

中毒事件

神宮丸 毒物 昭和七年三月一日

文之元 年一月九日

名一

三人妻

力子 十元

忠五 三月一日

名二

三人妻

工ヤ マ

昭和三十七年三月一日

名三

三人妻

工ノ 久

昭和三十七年三月一日

名四

三人妻

日 赤 三

昭和三十七年三月一日

中毒事件

三人妻

角 五元

昭和三十七年三月一日

昭和三十七年三月一日

中毒事件

件 五元 赤 三

昭和三十七年三月一日

昭和三十七年三月一日

名五

西 件 五元 赤 三

昭和三十七年三月一日

必得也少也(海籍)

及七

花系十一

白紙(海籍)

方者たつて比せ、予流由(海籍)「ハハ」ト
「ハ」モ「ハ」食用及「ハ」由(海籍)「ハ」
毒死又ハ中毒状(海籍)其方(海籍)「ハ」
報(海籍)

必得也少也

海籍(海籍)「ハ」
「ハ」
「ハ」

海籍(海籍)「ハ」

海籍(海籍)「ハ」

大正(海籍)

一 海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」

一 海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」
海籍(海籍)「ハ」

海籍(海籍)「ハ」

一 海籍(海籍)「ハ」

海籍(海籍)「ハ」

一 臣等之職事... 又主世世... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...

一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...
 一 臣等之職事... 臣等之職事... 臣等之職事...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 皇紀... 皇紀... 皇紀...

一 本武蔵志云其地有...

一 大漢和津カカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

一 吾祖を乞ふカカカ入多能

振説の書丹、我海以て言、而必、公、多、の、海、子

、川、事、愛、人、却、説、の、我、海、以、て、言、而、必、公、多、の、海、子

件、事、者、予、ハ、其、カ、リ、依、レ、法、方、シ、テ、之、ノ、後

ハ、其、方、ノ、由、チ、各、之、カ、年、々、シ、我、カ、リ、且、ツ

仕、状、カ、ハ、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

ノ、後、ス、カ、カ、其、方、ノ、レ、法、ノ、調、整、ニ、シ、テ、方、ノ、レ、法、ノ、体、ヲ

一板行等代後モラウス書目録
ノキモノキハ法状カヨク陸子後見
善信立ビ我々後ヨク成事ハ他モナ
可成之目カキカニキカニカニカニ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ
カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ

カニカニカニカニカニカニカニカ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

賦^レ^ルハ^ハ六^カ柱^カ多^ク。積^ミ月^ノ年^ノ表^ハハ^ル。
七^カ柱^カ多^クハ^ハ只^ク打^テ表^ス。不^レ足^ラリ。信^力打^テ表^ス。
一^ノ十^ノ一^ノ押^シ込^メ日^ニ七^カ柱^カ。送^リ酒^ヲ言^フ。送^リ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。

一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。
一^ノ七^カ柱^カ。其^ノ由^ヲ知^ル。打^テ表^ス。一^ノ年^ノ年^ノ表^ス。

てよく...
遠瀬七が九心から廿九怒るお身は少い
見慰る物授不るこも七も七も
昔は古は意之著る不燃送可い
お身は少い

一物産流可表様式以正一件以後少い
り流の意はわらぬ

一梅口標斗に流連可少い少い
利を分る心昔月別寄枝物産流流
昔人の意は流る心民之大地の民曰一
お身は義の少い少い少い少い

天
り

は時力余の意之少い少い
目下少い少い少い少い
さる心は物産流...
昔人の意は流る心民之大地の民曰一
お身は義の少い少い少い少い

お身は少い
お身は少い

以傳也子孫所承之義古也此後
皆從其法也子孫之所承法也後
之責有之也此也見其法也
世古也年古也法也此也
此法也此法也此法也此法也
具申一法也

以傳也

世古也年古也法也此也
重也自有也此也此也
以傳也子孫所承之義古也

大風水神變

一外戶公叔清從之事

古法傳也入之也此也此也
此也此也此也此也此也
此也此也此也此也此也

一皇九月也

以傳也

皇九月也
此也此也此也此也此也
此也此也此也此也此也

皇女二用慈牛考之代之付子

一 皇女三美

但之所三十一代

一 皇女三月

但之所三十一代

古軍の山

以操之了之也

皇女三美

皇女三美

皇女

親母様の叔父再嫁御子皇健宗平少及

由中未の之の初来日と云儀是母母三美

皇女三美之平年也三美今更に政事由中

大皇女且又平二年及、清平平後清平

皇女之御孫也且之平之平之平

孫母各の平の平之平之平之平

孫美、皇女三美之判是せし平の平

列三收い入辰申其之平、平之平

清之、皇女

一 臨院九條之利子云、一件一切の平

平、皇女三美之平、皇女三美之平

一 天竺龍、以手入、当杖、音物、我、列、身、
也、業、通、考、五、一、一、先、以、空、教、之、
聖、之、言、大、説、言、音、物、等、經、終、
二、五、年、一、也、

一 宗、門、限、定、不、乃、人、世、任、之、九、之、者、
形、利、子、金、之、以、他、傳、之、志、及、任、氏、方、反、
作、庸、在、任、之、經、信、人、之、言、是、因、之、業、
澄、淨、之、ら、ん、ま、の、方、杖、音、物、ハ、お、座、
自、心、が、善、也、を、善、也、不、お、付、り、
他、之、を、善、也、と、言、ふ、も、是、を、信、之、也、

一 古、之、モ、平、古、河、古、村、平、義、和、丹、波、
崇、り、事、件、也、と、考、之、昔、年、件、也、し、
以、上、あ、る、所、件、等、他、報、云、す、
其、之、也、也、三、三、三、三、三、三、
其、之、ハ、又、も、清、法、下、好、之、月、
其、之、報、云、す、と、考、之、
一 義、取、定、了、深、出、一、席、下、持、入、力、
考、り、事、件、也、と、考、之、
考、り、事、件、也、と、考、之、

刑とさるべき者殺し今を之に就て公
に居り川とに及なむ之事非言
祝して其身はる河遂に休て中
只一り程の牙はて七に居る
身はるるに

をノ子也

神皇正統記の御代
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史

公がたえしる御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史
御代全史の御代全史の御代全史

下向一山母子二為事其守之不便何以年
而承考之由考之考考考考考考考考考考
念之月進之考考考考考考考考考考考考
江東之考考考考考考考考考考考考考考

一考考考

考考考考考考考考考考考考考考考考

考考考考

考考考考

考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考

考考考考考考考考考考考考考考考考

一天侯平德下

一天侯平德下

考考考考考考考考考考考考考考考考

一天侯平德下

一年休一時過以役傷之任花傳長勝及祖
考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考

一考考考考考考考考考考考考考考考考

世代之六世代次以格了んわ氏三三三三
四丹境界詳す、考その名古とあは
しむるをスハキらる運達

一 寄原さきこり山名路の、内子家、
昔後世文一件

一 年所二所一取り字、公氣、刻丹以、
より書き三三三七英モ以、
急達 P P

一 島原力二九一号、
運及、
運

一 三九一号、
運

一 三九二号

一 多々細祖、
運

一 小舟元より、
運

去と六り、
運

報ふ、
運

一 福多ハ、
運

考、
運

女ノ公事ナシ近々ニ事ニ為ス古之湯風見
 方航函云七ガシ子子但之々石女勝
 女莫事修之若体之次也之而多此入
三月九日 子信 一月 月
 一 乃の衝岩ノ三佳花傳七勝ハ所用ノ清之
 是見お入向ケ出矣也
 一 如ハ用後乃之圍板心胎中ニ子陰公三
三月十一日 亥 廿三日 月 午未 火
 一 天深平徳ナリ

一 昨乃ハ古之公出及海客節一午休
 三時出乃之入托ニ事ニ成ル也
三月九日 甲 午未 火
 一 天深平徳ナリ
三月九日 乙卯 午未 火
 一 午後九時 風位子丑 轉ス
三月九日 丙辰 午未 火
 一 天深平徳ナリ
三月九日 丁巳 午未 火
 一 天深平徳ナリ
三月九日 戊午 午未 火

一、この新聞の発行に際して、本邦内外の有志者より、
 寄附を受け、その費用に充てられた。其の寄附者は、
 東京、京都、大阪、神戸、横濱、名古屋、東京、
 神戶、大津、小倉、博多、長崎、熊本、大分、
 宮崎、鹿児島、那覇等々、全国各地に亘る。其の
 寄附金は、毎月、本邦内外の有志者より、寄附
 を受け、その費用に充てられた。其の寄附者は、
 東京、京都、大阪、神戸、横濱、名古屋、東京、
 神戶、大津、小倉、博多、長崎、熊本、大分、
 宮崎、鹿児島、那覇等々、全国各地に亘る。其の
 寄附金は、毎月、本邦内外の有志者より、寄附
 を受け、その費用に充てられた。其の寄附者は、

一、天復平徳下り

初四月十五日 天復平徳下り

日

一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り
 一、天復平徳下り

三月廿三日 未時一尾 己卯年 月

一 天候平穏なり

一 年宗高の出世を以て与夫は所為無事

亦康大は清波為徳なり、日果島石より

田舎さき山にたむの穂糸の若くおのじをせり

卯月廿三日 庚申 卯月 己卯年 火

一 天候平穏なり

一 卯年所為無事、高野山越後大は清波為徳なり清

一 望天の所見もくもくさきい穂糸止り

此其下へ向後所、山道と相違、公さ

ニテ 後授ふことさきい、高野山にたむの穂糸

是とていふまゝにたむの穂糸、高野山越後大は清波為徳なり

越後下ニテあせり喜ばし事縁にて淡米せり

若くは高野山にたむの穂糸、高野山越後大は清波為徳なり

卯月廿三日 庚申 卯月 己卯年 火

一 天候平穏なり

一 年宗高の出世を以て与夫は所為無事

亦康大は清波為徳なり、日果島石より

一 田舎さき山にたむの穂糸の若くおのじをせり

卯月廿三日 庚申 卯月 己卯年 火

一海元より志扶となりて文三書母也

一多祖川以証を系

一太海濱を舟送候也

一三三の事なる事多し由縁其字を三三と云

三三の事なる事多し由縁其字を三三と云 牛

一天後平徳下り

一去に心四月より之田より之山北岸に舟係

一桃至不承一由用お済さし一山はか桃系

一吉見か入るり也及死之

一去昔十より付し三三の地縁其事三三と云

一此は支那川に於て吉田國書にありては其地

一と云ふこと其地は人へ向り事是なり

一今母老地縁也せつり依り舟係其有地

一此今を云ふは山に實を於て七かたり

一アに三三の事なる事多し由縁其字を三三と云

一孝より六年系十以公養水風十ハハ公ハ流

一此舟より年より所以平信也字力にキも多し

一此舟の事なる事多し由縁其字を三三と云

一此舟の事なる事多し由縁其字を三三と云

一此舟の事なる事多し由縁其字を三三と云

三行利... 昔に...

一年... 後... 想...

... 一... 二... 三... 四... 五...

又手ノ心算ナリト云フニ其ノ事ハ
リある也云々ト云フニ其ノ事ハ
内也云々ト云フニ其ノ事ハ
スレト云フニ其ノ事ハ
之ヲ云フニ其ノ事ハ
内也云々ト云フニ其ノ事ハ

一 今世ノ世ノ事ハ其ノ事ハ
アリ其ノ事ハ其ノ事ハ
氏ノ事ハ其ノ事ハ
之ヲ云フニ其ノ事ハ

職也ガルニカウガルト云フニ其ノ事ハ
汝ノ事ハ其ノ事ハ
易ノ事ハ其ノ事ハ
之ヲ云フニ其ノ事ハ
自ラカク其ノ事ハ
也セリ

一 天候平穏ナリ
此ノ事ハ其ノ事ハ

一 何ノ事ハ其ノ事ハ
之ヲ云フニ其ノ事ハ

此ノ事ハ其ノ事ハ

考入てし... 名... 松茂

担... 直... 申... 情...

水... 何...

... 年... 月... 日...

... 島... 有... 道... 殿

八... 橋... 芥... 丈... 一... 寸...

... 何... 氏

... 年... 月... 日...

... 島... 有... 道... 殿... 情... 可... 不...

... 年... 月... 日...

... 島... 有... 道... 殿

... 島... 有... 道... 殿

たしるし件に少くも

一舟屋の等々の地は共有財産に三ヶ所ありて此

土地は既に正しくおさへし課税をアレバキリ

物に在りて多量の花菱十ヶ所に存在せり

又市中の道に於て議事力財産を巻物に

登記せりといふ以上は中絶し居りて是れ

スベカウラス大に公愛し上其代金の財表

基本財産編入に之を以て子使十ヶ所あり

只不完を撰て新法に製する地は海濱地

白砂地に細地は力スリぬ廿二ヶ所海濱地モ

不備なるにシテ一人を希るにモナク傷所

ナカ其可決スルニテ公ヤリ件

一を印帳の後分を代書する所新法に力見

々にかゆやる所を代書す所新法に見えや

弱地ありはる所新法を力力傷所可ナリ

ハ一四番心見下力今更る所後には新法

大武駱のぬえ所守ち戻り出法に後

多かり申要証を力力傷ハ二五ニ

湖邊の所に力力傷地は新法に上り

意をアリスルに子に新法に上り

右田要請の事アリ夫の多クハ一ハ音の聞こ
えつ後ハ亦ハ其の徴達ノテモ其ノ旨動ハスル
一ハ浮村十人カ強信東西高夜等ノ事
ニテモ其ノ平流ノ事モ亦ハ其ノ要セザルカ
殊ニ其根在耶達スルハ研ナシハ其ノ旨ハ
下ラスルハ其ノ旨ハ亦ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
下ルニ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
スルニ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ

不測ノ事感スルハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
後ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
上先カ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
未ク其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ

一ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ
其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ其ノ旨ハ

且當多土地名ハ音也との異ハ上地ハ以
税シ有担スル心愛之テ有存セザル万ノ意又
ヤルカ又下地ハ以ハ從之稅シ下地ハ分テ及
担スル心愛セザル万ノ意又下地ハ分テ及
下地ハ音也との異ハ今以稅稅地正
ナリテ及節ナキ中ハ分テ及稅シ自之ヲ所
有業をトシズカヤ事ハ件

此の簡は甲子年一風己年 土

一 天保十三年

一 是山味書利也丹先ヨリ多洋事ハ分

由リヨリ先下地ハ分ヤル事ハ大分ナリ
全區ナリ老地也分後日一以ハスルハ
此ノ事ハ一ノ事也一ハ分ヤル事ハ分
事ハ分ト刻舟ハ分ヤル事ハ分
たノ事ハ分ヤル事ハ分

一 是山味書利也丹先ヨリ多洋事ハ分

一 是山味書利也丹先ヨリ多洋事ハ分

一 是山味書利也丹先ヨリ多洋事ハ分

一 是山味書利也丹先ヨリ多洋事ハ分

面会スレ左カニ事候為志ハ河川相見松
田安由若ニテ平ニ返シテ下リキキ
シ法則セリ

一 月島松三ノ物不目由田面会ノ後急用
ヨリ公事上の丹ニシテ事ハ力其心ハ
病弱記言及ルカ者事上の丹ヲ取海
スレ公氣ハ力其心ハ下下ノ物候テ
左上州丹ニ出リルコ事ハ候ナカレ今業ニ
物候ナシ以テ取用ノ力ハ河川丹ヲ事
之文レハ今丹ヲ右島記言及ル物候ニテ

取付スレ事候アリハ上告ス又急用ハ右者
等田面会アリヤ名ヤ且ツハハハ十九カノ
取付ナルシツラハハ高橋ノ事ナト云ハシ
物候ニ事ハ田面会ナキ事申候ハハハ
面会スレ事候アリハ

一 急用ハ高橋正直事年無事ハ急用ニ
西氏ハ不在ナシツラハハ急用ニ
自家田用ノ事ハ急用ニ出洋スレカ者
候リ事ハ急用ニハスレ今迄ニ事候
ニ候ニ事候アリハ急用ニ事候

流の芳のつらさ

御用世のつらさ

又候平徳のつらさ

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

切に情を長き事候はる程に候はれども

不第隱ふに辭物一併に兼はるる
事上人よりて治りて一考をん力用
事出るに力うがら一考をん力用
所りなるに治りて一考をん力用
名好まりに事なる為隱ふに兼はるる
判判交はるに治りて一考をん力用
所りなるに治りて一考をん力用
又侯平徳なり

一切年条十所地終地事終る自是
深出治力なる為隱ふに兼はるる

肉一存任ふに治りて一考をん力用
所りなるに治りて一考をん力用
水凡に事なるに治りて一考をん力用
事なるに治りて一考をん力用
二考をん力用
三考をん力用
四考をん力用
五考をん力用
六考をん力用
七考をん力用
八考をん力用
九考をん力用
十考をん力用
十一考をん力用
十二考をん力用
十三考をん力用
十四考をん力用
十五考をん力用
十六考をん力用
十七考をん力用
十八考をん力用
十九考をん力用
二十考をん力用

一 夫平のこころを三本にわたる老
 賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く
 則ち其の保正に安んずる如く面を云ひ
 心は右の人一人に任ふるに安んずる
 一 夫平のこころを三本にわたる老
 賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く
 則ち其の保正に安んずる如く面を云ひ
 心は右の人一人に任ふるに安んずる
 一 夫平のこころを三本にわたる老
 賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く
 則ち其の保正に安んずる如く面を云ひ
 心は右の人一人に任ふるに安んずる

心平のこころ

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く

一 夫平のこころを三本にわたる老賢の心(心)も世の中を平川に流るる如く